

国内経済情勢

概 観

欧米主要諸国では最近公定歩合があいついで引き上げられ、世界的な高金利の定着化の動きが強まるなど、国際経済金融環境はきびしさを加えつつある。

国内経済動向をみると、生産の増勢はやや鈍化の動きであるが、反面出荷は総需要の拡大を背景に根強い増勢をたどっており、これに伴って製品在庫率の上昇も一服の動きとなっている。商品市況は品目により区々ながら鉄鋼の急騰を中心に総じて強含みの動きに推移し、卸売物価もかなりの上昇を示している。

企業の資金需要は顕著な増勢をたどっているが、大企業では長期資金の調達に期待ほどには進捗しないことなどから、先行きに備え総じて慎重な資金繰り態度を続けている。ただ期末に都市銀行がある程度弾力的に貸し応じたこともあり、一部の企業ではひとところ予想されたほどの資金繰りひっ迫感は生じなかったようである。

3月の国際収支は、総合で190百万ドルの黒字となり、外貨準備高もさらに水準を高めた。季節調整後の貿易収支をみると、輸出が一時的要因も加わって著増したため、黒字幅は一段と拡大した。

製品在庫率の上昇一服の動き

鉄工業生産(季節調整済み)は2月に前月比+1.8%とかなり増加したあと、3月(速報)は-1.5%と3ヵ月ぶりに減少した。月々のフレをならしめると、生産の増勢はこのところやや鈍化の動きとな

っている。これには、トラック、標準モーター、冬物家電製品等一部の品目についてメーカーの生産態度がいくぶん抑制の動きとなったことも影響しているが、耐久消費財等にみられる季節性の変化のような要因もかなり響いている模様である。

3月の生産を財別にみると、生産財、非耐久消費財が微増を示したほかは、前月増加した建設資材(金属製建具等)、耐久消費財(家電製品等)、一般資本財(化学機械等)が軒並み反動減となった。

一方鉄工業出荷(季節調整済み)は、2月に前月比+0.2%と微増のあと、3月(速報)は+3.4%の大幅増加を示した。これには船舶の著増が大きく響いているが、月々のフレをならしめても、出荷の基調には根強いものがある。

3月の出荷を財別にみると、上記船舶の著増から資本財輸送機械が大幅増加となったほか、一般資本財(圧縮機、工作機械等)、生産財(鉄鋼等)がかなり増加した反面、耐久消費財(家電製品等)は相当減少した。

製品在庫は、2月に前月比+2.1%とかなりの増加を示したあと、3月(速報)は+1.0%の増加にとどまり、製品在庫率指数(93.3)も前月(95.5)より低下してほぼ昨秋ごろの水準にもどった。もっとも、出荷および製品在庫から例月フレの大きい船舶、鉄道車両、食料品を除いてみると、製品在庫率指数は2月92.5、3月92.8(昨年12月92.3)と依然微騰傾向を示しているが、製品在庫率の上昇が一服の動きとなっていることはいふまでもない。

設備投資の動きをみると、これとはほぼ一致して動く一般資本財出荷が2月に前月比+0.7%の増加のあと、3月(速報)には+3.0%の増加となっ

ていることなどから推して、設備投資は依然堅調に推移しているものとみられる。一方、先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節調整済み)は1月前月比+0.9%、2月+0.6%と頭打ちぎみに推移しているが、最近発表された各種投資予測調査によれば、44年度の大企業の設備投資は前年度に比べかなりの増加が見込まれている。

この間求人倍率(季節調整済み)が高水準を示し、求人充足率(季節調整済み)も一段と低下していることからうかがわれるように、労働力需給は引き締まりの度合いを強めており、本年の春季賃上げ要求額および回答額は目下のところ昨年をかなり上回っている。

個人消費は根強い増勢を続けているものとみられ、関連指標の一つである百貨店売上高もこのところ堅調な足どりを示している。

卸売物価はかなりの上昇

最近の商品市況をみると、鉄鋼の著しい騰勢が目だつほか、そ毛糸、銅等も続騰し、またこれまで軟調を続けてきた綿糸、スフ糸、ガソリン、上質紙等にも下げ止まり気配ないし小反発の動きがみられるなど総じて強含みとなっている。鉄鋼の値上がりは、欧州向け輸出成約の活況を背景にした店売り分出荷削減などによる市中玉不足を映じたものであるが、最近の急騰には間屋の売り惜しみなどのおもわく要素もうかがわれる。その他の商品の下げ止まりないし小反発についても、需要期入り(綿糸等)、設備修理(石油製品)といった諸事情が響いているものの、信用不安感の後退などにより心理的な明るさが生じたこと(繊維、紙等)も一因になっていると思われ、総じてこれまで流通段階にみられた先安警戒気運はかなり薄らぐに至っている。

このような情勢を映じ本行卸売物価は、3月以前月比+0.3%とかなりの上昇を示したが、4月にはいつてからも鉄鋼、非鉄等の続騰を主因に

上・中旬とも前旬比+0.1%と上昇を続けている。なお43年度平均では、上半期中における落ち着きが響いて前年度比+0.6%の小幅上昇にとどまり、前年度の上昇率(+1.5%)をかなり下回った。

一方消費者物価(東京)は、3月に月央の豪雪による食料品の値上がりから、前月比+1.0%の大幅上昇となったあと、4月も教育費、教養・娯楽費等の上昇を主因に+1.3%と続騰し、再び騰勢を強めている。なお43年度平均の消費者物価(全国)は、食料、サービス関係の値上りを主因に前年度比+4.9%の上昇となり、前年度の上昇率(+4.2%)を上回ったが、ひところの予想よりは低めにとどまった。

全国銀行貸出はかなりの増加

3月の銀行券は、月央まで順調な還流を示したが、下旬に大幅な増発をみたため、結局月中では1,291億円の発行超(前年同1,495億円)となった。一方財政資金は、租税収入が多額に上った反面、外為会計の大幅払超に加え、年度末の関係から公共事業費などの支払が進捗したため、月中1,694億円の支払超(前年同1,252億円)となり、金融市場では月中290億円の資金余剰を生じた。この間コール市況は、月初から下旬央まで引き締まりぎみに推移したが、その後は財政資金の支払集中により引きゆるみに転じ、4月1日以降コール・レートは各条件物とも日歩1厘の低下をみた。

4月の銀行券は月中307億円の発行超(前年同416億円)となったものの、他方財政資金が地方交付税交付金の支払などから4,296億円の大幅払超(前年同1,894億円)となったため、金融市場では多額の資金余剰を生じ、本行は短資業者に対する政府短期証券の売却などによりこれに対処した。コール市況は通月さほど引きゆるむことなく推移したが、金融市場における資金余剰が当面持続すると見込まれることから、5月1日以降翌日物、無条件物について日歩1厘の低下をみた。

銀行券の月中平均発行残高の前年同月比増加率は、2月+17.0%、3月+17.5%とすでに水準を高めたあと、4月は+16.4%とやや低下したが、銀行券は依然根強い増勢基調を続けている。なお1～3月中の預金通貨の平均残高推計(季節調整済み、各月末平均)は前期比+4.3%(昨年10～12月+2.8%)と増勢を強めており、手形交換高に対する預金通貨の回転率も低下傾向をたどっている。

3月の全国銀行貸出は、都市銀行を中心に月中5,626億円増と前年同月を22.4%上回り、引き続きかなりの増加を示した。

企業の資金需要は総体として顕著な増勢をたどっているが、優良中堅・中小企業に対しては相互、信金などが総じて積極的な融資態度を示している。その反面大企業では、信託、生保などからの借入れや起債などによる長期資金の調達为企业の期待ほどには進捗しないため、先行きに備えて総じて慎重な資金繰り態度を示しており、一部業種では設備代金の支払条件悪化の事例もみられる。ただ期末に都市銀行がある程度弾力的に貸し応じたこともあり、一部の企業ではひところ予想されたほどの資金繰りひっ迫感は生じなかったようである。

なお、全国銀行貸出約定平均金利は2月に続き3月も月中1条の低下にとどまった。

この間、公社債市況は引き続き大勢弱含み裡に推移しているが、都市銀行の売却が比較的少なかったことなどから4月央以降やや底堅い動きもみられる。

国際収支の大幅黒字続く

3月の国際収支は、貿易外収支や移転収支が季節的事情などから赤字幅を拡大し、長期資本収支も3ヵ月ぶりに赤字となったにもかかわらず、貿易収支が多額の受超となったため、総合収支では190百万ドルの大幅黒字を続けた。これに伴い、

金融勘定では外貨準備が127百万ドルの増加を示したほか、為銀対外ポジションも引き続き改善した。季節調整後の3月の貿易収支の黒字幅は357百万ドルとこれまでの最高を記録したが、これには輸出面における一時的要因もかなり影響している。なお43年度中の国際収支は1,627百万ドルの大幅黒字となり、前年度(535百万ドルの赤字)とは様変わりの好転を示したが、その主因は輸出の著増(+27.4%)と輸入の落着き(+10.5%)により貿易収支の黒字幅(3,025百万ドル)が大幅に拡大したことと、外資流入の増大から長期資本収支の赤字が小幅にとどまったことにある。

3月の輸出は、前年同月比+32.1%と再び水準を高め、季節調整後の前月比でも+9.1%の増加となった。もっとも当月の大幅増加には船舶の引渡し集中および韓国に対する米の貸与などの要因が相当響いている。商品別(通関ベース)にみると、上記船舶の著増のほか、鉄鋼(非米地域向け)、自動車、合繊等が好調を示している。

先行指標である輸出信用状接受額(季節調整後)は3月に前月比-9.9%とかなりの減少を示したが、4月には機械、化学、繊維等を中心に+6.7%の増加となった。月々のフレをならしてみると依然順調に推移しているが、このところ増勢はやや鈍化している。

一方、3月の輸入は、前年同月比で+10.2%となり、季節調整後の前月比では+2.8%とやや水準を高めた。商品別(通関ベース)にみると、小麦、非鉄、石油等が増勢を示した反面、くず鉄、綿花、とうもろこし等は前年同月を下回った。なお先行指標である輸入承認額(季節調整済み)は2月に前月比-10.2%と減少したあと、3月は+7.9%の増加となったが、月々のフレをならしてみると、このところかなり落ち着いた動きを示している。

(昭和44年5月2日)